



人間ドック健診施設機能評価認定を受けました

当院では、1人1人の受診者様に合った全人的医療・総合診療科的な医療を心がけることが大切だと考えております。これから高齢社会に突入する上で、生活習慣病や様々ながん・疾患の早期発見・早期治療を目指しております。皆さまの健康サポートを行えればと考えておりますので、お気軽にご来院くださいませ。

人間ドック健診施設機能評価認定とは

日本人間ドック学会が、受診者が安心して健診を受けられることを目的として、人間ドック健診施設を評価しています。
学会が定める様々な審査項目をクリアした優良な施設が認定を受けられます。県内では5番目の認定施設です。

●お問い合わせ

健康サポートセンター

089-989-6608(直通)

受付時間 9:30~17:00(月曜日~金曜日)
日・祝日等、当院休診日は除きます

「グーパー体操」



初めに右手を前に出しパーにします。左手は胸の前でグーを作ります。「ハイ」の合図で手を入れ替えます。

難易度 UP 前に出した手をグー、胸の前の手をパーにし交互に入れ替えます。

「耳・鼻つまみトレーニング」



初めに右手で鼻を、左手で耳をつまみます。「ハイ」の合図で手を入れ替えます。

難易度 UP 間に手拍子を入れてから手を入れかえます

自宅でできる脳トレ
マルチタスク
トレーニング
二つ以上の動きを同時に行う運動のこと。頭の衰えが気になる中高年に認知症の予防対策として注目されており、転倒予防にも効果的と言われています。

最近の出来事

【 おおぞら病院 演劇会 】

5月18日、完熟一期座の公演、喜劇「泥棒学校」がありました。この公演は、毎月1回土曜日に、4階病棟のレクリエーション「歌おう会」で伴奏して下さっている酒井先生のご縁で実現することができました。歌あり笑いあいの楽しい時間をみんなで過ごすことができました。酒井先生、完熟一期座のみなさんありがとうございました。
看護師長:山本 比呂美



【 介護予防教室 】

6月18日、美沢集会所にて25名の参加者に対し、介護予防教室を開催しました。参加された地域の皆さまが意欲的で明るく取り組んでくれたため、楽しく予防教室を行うことができました。今後も院内のみならず、地域の方々にも運動習慣の大切さがわかって頂けるよう、予防教室を継続していきたいと思っておりますので、御協力宜しくお願い致します。
リハビリ:真鍋 匠



【 おおぞら病院 乳腺イベント 】

6月22日、当院にて公開講座が開催されました。愛媛大学乳腺センター西山加那子先生、村上朱里先生より、「乳がんについて～検診から治療まで～」「乳がんって遺伝するの?～乳がんと遺伝～」と題して講演を行い、たくさんの方に来ていただく事が出来ました。たくさんの質問が飛び、充実した公開講座になったと思います。
放射線:石山 絵美



理念

私たちは、地域の皆さまに親しまれ、信頼され、満足される病院を目指します

特集 外来

- 脳神経センターを開設しました
- 外来を支えるチーム



新しい事に勇気をもって挑戦する、そうした人を励ます社会、そのような「令和」の時代になってほしいと思っております。さて、お蔭さまで、「おおぞら病院」と改名して5年目を迎えることができました。今後とも、理念にある「満足される病院を目指す」その所信を忘れず、スタッフ一同、頑張っております。また、所属する事務部門におきましては、機能分化と地域連携が進む中、高い情報収集能力と分析及び判断力が求められ、組織運営をしっかりとサポートするとともに、医療スタッフの働きやすい内部環境を整え支えるという役割があります。及ばずながら、事務部のスタッフとともに、積極的に取り組んで行きたいと思っております。
事務部長 竹内 正弘



外来診察のようす(脳神経内科)

脳神経センターを開設しました



新任

脳神経センター長
脳神経外科部長
須賀 正和

日本脳神経外科学会専門医
日本認知症学会専門医・指導医
日本脳卒中学会専門医
認知症サポート医



令和元年5月1日より、脳神経センター長として赴任しました。
脳神経センターは脳神経外科専門医、脳神経内科専門医を中心に、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、技術検査部門スタッフがチームを組み、脳卒中、パーキンソン病、認知症、てんかん、頭痛、めまいなどの診断と治療を行います。
又、リハビリテーション科や社会福祉士と連携し、患者さん、ご家族と共に脳卒中回復期の治療やリハビリを行います。
診断、検査の結果、手術や特殊な治療が必要な場合は、関連の病院へ紹介を致します。スタッフ一同、地域の皆さまから信頼されるセンターを目指しております。

ふるえやしびれ等が気になる方は受診してください。

脳神経内科は、脳・脊髄・末梢神経・筋肉の、器質的(=精神的なものではない)あるいは機能的な疾患を内科的に診療する科です。当院の外来では、神経変性疾患(パーキンソン病や認知症、脊髄小脳変性症など)やニューロパチー、脳卒中の再発予防、てんかんなどの診療を行っています。ふるえ、しびれ、運動麻痺、めまい、頭痛、物忘れなどの症状のある方はお気軽に受診してください。
病棟では、脳卒中や神経疾患で急性期病院から直接自宅への退院が困難な患者さんに、集中してリハビリテーションを行っています。さらに、慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー(CIDP)の免疫グロブリン大量静注療法などの入院加療も行っています。



脳神経内科部長
富田 仁美

日本内科学会 認定医・専門医
日本神経学会 専門医・指導医
日本老年医学会 専門医・指導医
日本脳卒中学会 専門医

Topic 整形外科

～骨粗鬆症について～

日本は、平均寿命は男女とも世界でトップクラスを維持していますが、健康寿命ものぼして、頭も体も健康で制限のない生活を送りたいものです。健康寿命を縮める原因の一つに骨粗鬆症があります。骨粗鬆症が原因で生じる股関節周囲の骨折、背骨の骨折は寝たきりの原因となり、さらには寿命を縮めることにもなります。当院では超音波を用いた簡便な検査で、大まかな骨密度を測定し、治療に役立てています。
かかと部で測定、被ばくや痛みもない検査ですので、気になる方は受診してください。



整形外科部長
河田 典久

日本整形学会 専門医
認定脊椎脊髄病医
認定運動器リハビリテーション医

外来を支えるチーム

私たち外来診療支援チームはおおぞら病院の理念である「地域の皆さまに親しまれ信頼され満足される」を目指し連絡を密にして情報共有を行うことで患者さんに満足される診療を支えていくことを目標としています。

看護師

私たち外来看護師は8名のスタッフで患者さんの看護にあたっています。
医師からの指示を受けて、患者さんの各検査・処置・指導を行っています。内視鏡検査を受けられる患者さんに対しては、検査前後の説明と検査後の体調不良がないか確認を行っています。
限られた時間内で大勢の患者さんに対して、安全で安心して頂けるようなケアを行い、また思いやりを感じて頂けるような温かい笑顔で接することをモットーに看護が提供できるよう心掛けています。



内視鏡

胃カメラを、健康診断で10名、外来受診で3～4名の方がほぼ毎日受けられています。
午前中の限られた時間の中で、食事をせずに待っていただいているので、できるだけ早く検査を始めたい。そのために、そのほかの検査があれば、どの検査から始めたらいいか、健診センターや外来のスタッフと情報共有しながら進めています。
検査が終わったらすみやかに説明が受けられるよう、連携はかせません。組織検査をしたら、検査室に提出します。すばやく、安全、安楽な検査の為、そして、満足していただくために、スタッフ同士で、連絡、相談を密にして、頑張っています。



検査室

検査室は今年度から新人臨床検査技師1名が加わり、現在6名の技師で業務をしています。
午前中は検体検査(血液・尿などの検査)と生理検査(心電図などの検査)の二手に分かれ検査にあたっています。検体検査においては、常に正確、迅速を心がけています。患者さんに接する生理検査においては、親切・丁寧、そして明るく対応するようにしています。
検査室は外来処置室と隣接しているので、追加検査など適時すぐ対応できていますし、パニック値が出た場合はすぐに、看護師、クラークさんに連絡をし、対応・処置などをしてもらっています。2ヶ月ごとに外来・健診・検査で話し合いを持ち、それぞれの懸念事項の改善を図っています。話し合ってみないと解からないことがそれぞれの部署と共有でき、大変、有意義になっています。
これからも、連携を密にし、患者さんに満足され、信頼されるよう努めていきたいと思えます。



クラーク

私たち外来クラークは、主に診察補助、書類の代行作成、予約管理をしています。
この仕事は「聞く力・気づく力」が重要です。抜けやミスがないよう、医師や患者さんの言葉に耳を傾けることで、私たちがどのように先回りして行動したらよいか考えながら仕事をしています。
院内では患者さんに明るく対応することはもちろん、他の医療スタッフとかかわることも多く、それらの職種の人たちとうまく関係を築くことが重要だと思っています。
私たちが医師のサポートすることで診察がスムーズに行なわれ、それが患者さんへのサービス向上へ繋がることを目指しています。

